

七尾港と七尾湾

霧のかかる七尾南湾を小型ボートで外海へ向けて進む。しばらくすると右手にLPG国家備蓄基地のガスタンク、左手には白い能登島灯台が見えてくる。

能登半島の中央部、波穏やかな七尾湾（七尾南湾）に位置し、古くから栄えてきた天然の良港、七尾港。七尾の「海の玄関」となっている

その海域は、屏風瀬戸（屏風崎（須曾屏風））石崎屏風（石崎）と荒神鼻（小泉崎）新崎を港界とし、七尾南湾のほとんどもを占める。

この港界を船舶が越えようと、「出港」あるいは「入港」したと認定される（年間約1800隻が国内外諸港から七尾港へ入港）。

外海と七尾港を出入りする船舶のほとんどは、小口（松鼻）観音崎（小口）を通り入出港する。小口は「海の玄関」の手前にある、七尾の「海の門」といったところであろうか。

能登島灯台

能登島灯台（能登島指向灯を兼ねる）を越えようとついに七尾港「出港」である。

能登島灯台は、能登島二六町と能登島日出ヶ島町の中間、七尾湾に突き出た荒神鼻（能登島日出ヶ島町）

の先端、岸辺の海拔2mほどの平坦部にある。

灯台の裏手は、草木に覆われる小高い森になっており、海から見た限りでは陸側への通路が見えたらない。

そのためか、海側には棧橋が架かり、船を使って管理されていることがうかがわれる。

この灯台の周囲には古墳時代のものでと思われる日出ヶ島荒神遺跡があり、土器が見つかっている。居住には不向きな場所であることから、製塩場であったといわれている。当ても船で通っていたのだろうか？



空は霧の影響で白くなっているが、森の緑をバックにした灯台の姿は、とても優雅な立ち姿をしている。対岸の新崎からも、その優雅な姿を少し遠目ではあるが観ることができ

小口瀬戸

港界を越えようと、外海（七尾湾外）までの海域は能登島と崎山半島に挟まれた狭い海峡になっている。最も狭い所は800m程であろうか。この海峡は、小口瀬戸と呼ばれており、「門」から「玄関」までの通路「アプローチ」のようになっていて、両岸からも出入りする船の姿がよく見える。

小口瀬戸は、狭い海峡の上、森田礁や七甲礁といった暗礁等があるため、大型船には狭い道であろう。

船舶の安全な航行を確保するため航路（船舶が運航する道）が整備され、3対の左げん浮標（緑）と右げ



ん浮標（赤）、能登島灯台により示されている。